

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	熊 奕淞
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 古代中国における「無為」の政治思想研究—新出土資料の考察を中心に—			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	末永 高康	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	有馬 卓也	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	後藤 弘志	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	名和 敏光	(山梨県立大学)
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は郭店楚簡『老子』『太一生水』や上海博物館蔵戦国楚竹書『凡物流形』『恒先』などの新出土資料にみえる「無為」の政治思想の構造を分析し、関連する伝世文献の記述と結び付けて先秦時代における道家的な政治思想の展開の一端を明らかにしたものである。</p> <p>序章においては、「道」から分析をはじめめる従来の研究方法を批判して、「無為」の政治思想に着目することの利点が述べられるとともに、本論文における研究の方法が示される。</p> <p>第一章では『凡物流形』を分析している。万物生成の起点であり万物をかくあらしめている形而上的な存在としての「一」を措定し、為政者が「心」を「一」にする工夫を通じてこの根源としての「一」を得ることにより「無為」の治をもたらすとするのが『凡物流形』の政治思想の骨格であり、これが「無」の「道」から「無為」の治を導くものではないことを明らかにしている。</p> <p>第二章では『恒先』を論じている。その生成論については、「恒」に端を発する生成過程と、「気」の「自生」との間の矛盾が問題とされていたが、本章では、対立するものが互いに相手を生み出しながら自らを生成するという、「相生」かつ「自生」による生成が『恒先』の考える生成であることにより、この矛盾を解決している。また、『恒先』の政治思想の骨格が、「恒」以後の生成に百姓の「自生」「自為」を対応させ、「恒」に先立つ「恒先」の「虚」「一」「静」に為政者の「無為」を対応させることによって、「無為」の治を説明するものであることが示されている。</p> <p>第三章では伝世文献の『管子』心術下・内業篇を取り上げ、両篇の共通部分から復元される祖本が『凡物流形』と同じく、「道」の「無」や「虚」に依拠しない形で「無為」の政治思想を語るものの、そこには「一」の形而上学が見えず、新たに「気」の思想が導入されていることを明らかにする。</p> <p>第四章では馬王堆帛書のいわゆる『黄帝四経』における、「天道」としての「道」と「無」の「道」との関係性を「法」「度」を手掛かりにして分析し、前者が「法」の依拠であるのに対し、後者が「法」の制定および運用における態度を規定するものであるという区別はあるものの、両者の「道」が一体化されていることを明らかにする。</p> <p>第五章では今本『老子』に見える「道」を、「返」と「弱」の「道」、「無」の「道」とに二分し、郭店『老子』は前者の「道」のみを語っており、「道」の語が見えない章でも、この「道」の思考、すなわち、消極的とされる一面に身を置くことにより、却って積極的な効果が得られ</p>			

るとする思考に貫かれていることを論証して、郭店『老子』の思想的―貫性を示すとともに、この「返」と「弱」の「道」による「無為」の政治思想が、以後の「無為」の政治思想の起点であることを導く。

終章では、以上の分析を踏まえて、郭店『老子』の「無為」の上に、「無」の「道」を根拠とする「無為」、「一」を根拠とする「無為」が絡み合いながら、『凡物流形』や『恒先』、『管子』心術下・内業篇の祖本を経て、今本『老子』へと至るとする「無為」の政治思想の展開を描き出している。

伝世文献に依拠した従来の道家思想史研究の重厚な蓄積に対する目配りにおいてやや欠ける点があり、「無為」の政治思想そのものよりは、それを導き出す思想構造の分析の方に重きが置かれた研究になってはいるものの、解読困難な新出土資料の分析に取り組み、新たな読みや見解を提示するとともに、先秦の「無為」の政治思想の展開に一つの描像を与えたことは高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)